

I N D E X

- ① 巻頭言
- ② 極楽坊あすかこども園開園
- ③ 滝寺お花まつり

- ④ やすらぎの杜延寿20周年
- ⑤ 児童施設より
- ⑥ 高齢者施設より
- ⑦ 新規採用職員研修会

- ⑧ 新任・就任あいさつ
- ⑨ 人事紹介
- ⑩ 各種報告

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257奈良県生駒市元町2-14-8桃李館内 TEL:0743-74-1172/FAX:0743-74-1911

巻頭言

## 「年度はじめにあたって」

理事長 辻村 泰範

毎年4月の初めに、各施設を回って直接職員の皆さんにお話をさせていただいていますが、今年は事前録画したメッセージをオンライン配信することにしました。その一部を紹介します。

最近マスコミでも頻繁に取り上げられるようになり、街の中でもよく見かけるようになったSDGsを表す色鮮やかなシンボルバッジは、国連の「持続可能な開発とその目標」を表しています。日本政府はこれを「誰一人取り残さない」持続可能な多様性と包摂性のある社会の実現のための目標と説明しています。

ずいぶん前のことになりましたが、法人の役員会で福祉サービスの経済性や効率性について話題になったことがあります。効率が悪く採算性の低い事業についてどう考えるべきか。我が法人が出した結論は明快でした。「私たちを必要とする人が一人でもいるのなら、切り捨てることはできない。」  
実は、ずーっと以前から「誰一人取り残さない」という理念は既に法人の中にしっかりと根を下ろしていたのです。

仏教の教えの中に出てくる菩薩「悟りを極めよう」とその道に励んでいるほとけ様」は、自分は既に悟りの世界に入る力を得ていて、いつでも悟りの世界、極楽世界に行く備えができています。「この世に一人でも迷いの世界、苦しみの泥沼に沈んでいる人がいるかぎり、その人をおいて悟りの世界に行くことにはない」と宣言しているほとけだと説かれています。

施設の玄関や事務所の目につく処に「志存興法 念在利生」と書いた色紙が掛けてあります。法人の理念を表す短い漢字の言葉です。「私のこころざしは正しい社会を実現すること 私の思いはいつも人々に役立つように心がけること」「いつでも、いつまでも、困っている人、支援を必要とする人がいる限りその人に寄り添うこと。」  
そのような意味を表しています。法人を創設した人たちの精神的支えであった興正菩薩勸尊上人のお言葉です。

育ちや居場所を求めている子どもたち、支援や介護を必要としているひとたちに、どのように応えていくことができるか。現実には様々な課題があることも否定できません。しかし、私たちは正しい

教えや理念を掲げ続けることが必要だと思えます。

私たちの仕事は決して安易な仕事ではありません。毎日が壁に向かって立ち向かっているような、険しい山道を登っているようなものであるのかもしれない。そんな時に、どこから聞こえてくるのです。「ひるむな くじけるな 諦めるな」と、背中を押してくれる優しいけれど力のこもった応援歌が。みんなが手を組めば、きつと道は開けますよ。チャレンジし続けようではありませんか。

地域社会におけるわが法人やそれぞれの施設の存在意義を自覚しようではありませんか。なくてはならない施設であることを。そしてあなたが働いているこの施設に、なくてはならない自分がいることに胸を張りましょう。

最後に職員への日頃の感謝を述べてメッセージは終わりました。

実は、私たちを支え励ましてくださっている皆様にこそお礼を申し上げねばなりません。いつも有難うございます。今年度もよろしくお願ひします。



## 極楽坊あすかこども園 開園！

極楽坊あすかこども園 園長 辻村 泰聡

令和3年4月1日、幼保連携型認定こども園「極楽坊あすかこども園」が開園しました。「極楽坊保育園」から園名が変わり、気持ち新たなスタートとなりました。



本来であれば、1日に式典の挙行を予定していたのですが、新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者が発生したため、4月13日に式典のみ改めて開催しました。新年度が始まったばかりで、まだ慣れていない子どもたちも多く、また新型コロナウイルス感染症の感染対策のため、外部からの来賓をお招きできませんでしたが、園児4、5歳児が参加し、愛護会の副会長さん、法人の児童部門の施設長が見守る中、平穩に執り行いました。



式典では、理事長から子どもたちにお祝いの言葉をいただきました。また、仲川げん奈良市長からも、「失敗を恐れずに、何にでもチャレンジしてくださいね、極楽坊あすかこども園で大切な友達と出会い、たくさんさんの経験の中で大きく育っていくことを願っています」と、メッセージを届けていただきました。最後に、くす玉を割って、みんなでお祝いをしました。



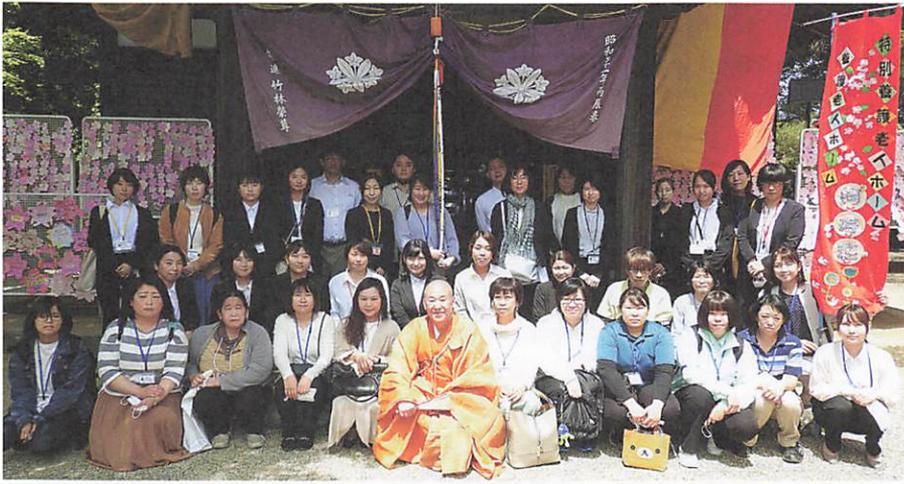
# 令和3年 滝寺お花まつり

令和3年4月25日 大乘滝寺にて

花まつり実行委員長 あすかの保育園 平林 美穂



今年のお花まつりは、新型コロナウイルス流行拡大で開催も危ぶまれる不安な中、規模を縮小してお稚児行列と法要のみ行うことになりました。本来なら一般の方や各施設の職員、利用者さんにも参加していただきたいところでしたが、残念ながら参加者は最小限にとどめることになりました。そこで、花まつりに参加する別の形として、桜の花の形をした紙を配り、今の願いなどを書いていただいて、「思いのこもった桜の花」を本堂横に飾ることにしました。



当日は良いお天気で、さわやかな風がふく新緑の境内に、各施設ののぼりや、本堂に飾られた桜の花が映え、とても華やかな雰囲気になりました。「思いのこもった桜の花」は参加された方々もじっくりメッセージを読んでも、あたたかい気持ちになられたようで皆さん笑顔がこぼれていました。



今回お稚児行列には30名ほどの参加があり、感染対策を取るため時間差で2グループに分け入替制にしました。色鮮やかな衣装に身を包んだお稚児さんたちが、愛染寮の「童笑(わらわら)」さんの太鼓に合わせて滝寺本堂まで練り歩き、道中では法人各施設の新任職員らに拍手で迎えられました。今年は、本堂の中にあがって法要と一人一人ご住職から御加持を受け、いつもと違う厳かな雰囲気にな少し緊張しておすまし顔のお稚児さんたちでした。法要後、各自由にお花御堂で甘茶をかけてお参りをし、その横に飾られた白象と写真撮影をしたり、甘茶をいただいたり、例年よりもゆったりと境内で過ごしてもらったことができたように思います。



そして、法人の発祥の地である滝寺と、お釈迦様のお誕生を祝う仏教行事であるお花祭りの意味を知ってもらうために新任職員が参加し、行事の後、理事長から法話がありました。お花まつりの由来やお釈迦様の悟りを開かれるまでのお話など、お花まつりをより深く理解することができ、とても有意義な時間となりました。

今回のお花まつりは、屋台などはなく規模は縮小されましたが、そのかわり職員も参加者とともに境内に集うことができ、本来のお花まつりらしさを感じることができたのがとても良かったと思います。コロナ禍で色々な制限も多い中、今できる形でこうして法人にとって大切な行事を開催することができたことは、普段働く場所は違っても同じ法人の下で働く仲間のつながりがあったからこそだと強く感じました。本当にありがとうございます。

まだまだ大規模なイベントを開催することは難しい状況が続くかもしれませんが、みんなが笑顔になれるようにアイデアを出し合い、協力して新しい形を模索しながら引き続き色々な行事に取り組んでいきたいです。





## やすらぎの杜 延寿 20周年

### 『いっしょに 丁寧に!』

延寿 施設長 井上 太

この四月で延寿も成人式を迎えた。過ぎてみれば「あっ」と言う間だったように思うが、決して順風満帆だったわけではない。

高齢者福祉の大変革、介護保険の創設の頃に竣工したのが「総合施設やすらぎの杜延寿」である。総合施設である以上高齢者福祉の駆け込み寺的存在になりたいと願いスタートした「延寿」であった。そんな「延寿」は建物の大きさはもちろんであるが、ここに住まわれる入居者百三十名、デイを利用される方々一日当たり約五十名、居宅を訪問する数一日当たり六十件、マネジメントをうけもつ数二百数十件、大まかに見ても毎日四百五十名ほどの方々との関りがある。そしてそれを支える職員の数も百五十名にも上る。言い換えれば職員も含め、それらすべての人が安心して暮らせることが命題でもあった。これだけ大きいと資金面においても一筋縄ではいかない。さて、どう舵取りをするか?これは今も次はどうするか?その次は?と頭を悩ませる。借金返しを考えるだけでも気が遠くなる。しかし急がば回れ、簡単に進める楽な道などあるはずがない。またちよつと気が緩んでいると、そんなときに限ってコロナ禍のような大型台風が猛威を振るう。少しさがってじつと耐え、

次の機会の為に力を蓄える。「三百六十五歩のマーチ」と言う歌があるが、三步進んで二歩さがる。そんな繰り返しであったように思う。ほぼ新人職員でスタートした延寿である。それこそ力量は発展途上であったが、そこにはそれを差し引いても余りある情熱があった。一日一日、町の皆様に知ってもらおう、選んでもらおう。それに応えられる力量をつけることを目標に目の前のことに真摯に向き合う、その積み重ねが今日である。これは利用者のみならず職員同士も良いところを見つけ引き出し合い、更に磨きをかける。そんな意味も込めた。「手間暇惜しまず丁寧に」である。誰かが誰かを育てるのでなく、人が学ぼうと思ったとき、新しいことに挑戦しようと思ったとき、それが出来る、そんな人が育つ環境、風土風潮作りが大切であったように思う。これからも起こるであろう様々な問題課題にも怯まず、失敗を恐れず、熱き情熱を持つ「チーム延寿」で挑戦を続けようと思う。



# 児童施設より

5p

- いこま乳児院
- こども支援センターあすなる

6p

- いこまこども園
- 愛染寮

7p

- 平城児童センター
- 仔鹿園
- 児童発達支援いっぼ

8p

- 極楽坊あすかこども園
- 奈良県発達障害者支援センターでいあー
- あすかの保育園

## どんぐりルーム24時間始動します

### いこま乳児院

保育士 廣津 小百合

いこま乳児院では、本体施設とは別にどんぐりルームという小規模グループケアを実施しています。施設という特別な場所ではなく、お家で過ごすと同じように保育者がお母さんとなって、限られたお友達と一緒に家庭での体験を積む場としてお部屋の環境も整えています。

乳児期は人生の基盤を作る大切な時期です。決まった担当者が傍にいることが安心感につながるという考えですが、職員が交代勤務である乳児院では、終日同じ保育者が傍にいることはできません。子ども達との愛着関係を結ぶ大事な時期だからこそ、「担当者との時間」や「個別ケア」そして「チームアプローチ」に拘り、複数の視点から子ども達を支えることを重要としています。また、乳児院では3歳を目処として、施設から家庭へあるいは、施設から里親さんや施設への措置変更が欠かせず、つなぎの役割も大きいです。移行先への気持ちか前向きになるよう、子どもたちの社会体験の充実を心掛け、将来へつなぎたいと考えています。

今年度5月より、週1回のどんぐりルームでのお泊りも始まります。私たちは、保育を1人で任せられる時間が増えるという事をしっかりと自覚し、自分自身の保育の質と、チーム力(チームアプローチ)の向上を目指してしていかなければなりません。その自覚の中で、少人数で過ごす時間を有意義に使いながら、子どもたちの経験を豊かにし、いこま乳児院らしく「もう一つのお家」として育ちをサポートしていきます。



## 同じようで同じでない日常

### こども支援センターあすなる

保育士 木村 史子

今年もやってきました新学期!毎年同じ準備をしているものの、何かしら変更も出てきます。コロナ禍真っ只中の今年、この状況を特別と考えず、これを日常としていくことも必要なのではないかと、この思いから昨年度中止としたうんどうかいなどの行事も年間の予定に入れました。実施の仕方を変えていく、でも子どもたちが楽しめること、喜びに繋がること、これは変えずに!

マスクをつけることが当たり前となっている今、幼稚園や保育園に通う子どもたちも、出掛ける前にはマスクが日常化しています。子どもの遊び方はハードです。子どもたちは疲れ知らずです。「はあはあ」とマスク越しに息をする子どもたちに早く、

思いっきり大きな声で笑って遊べる日が来ることを願うばかりです。



## コットを導入して

「寝る子は育つ」というように、睡眠は乳幼児の成長にかかせません。本園でも昼食後午後3時まで午睡の時間を取ります。本園では、3年前から計画的に午睡用「コット」を導入しました。令和元年度には、0歳児。令和2年度から1、2歳児。今年度から3歳児以上の幼児に導入し、全クラスに整いました。

「コット」とはポリエステルメッシュの加工の午睡ベッドで敷布団に代わるものです。「コット」は、支柱により10cm程高さがあり床に直接触れないので、ほこりを吸い上げにくくアレルギーの原因となるダニの繁殖を防ぎます。また、おねしょ等で汚れても水洗いができ、すぐに乾くので衛生的です。さらに、子どもが寝ると体を



## いこまこども園

リーダー保育教諭 坂上 茜

包むようにくぼむため、子どもにとっては安心と心地よさを感じられるものです。園児たちは、体を包み込むような素材に慣れるにつれ、ぐっすり眠れる園児も増えました。

保護者にとっても今まではお布団の持参や貸布団の利用をお願いしていましたが、バスタオル2枚の持参で済み、「荷物を減らすことが出来て嬉しい。」という声が聴かれています。職員にとっても、重ねて収納ができるため準備片付けの時間短縮、貸布団用シーツの管理業務が軽減できました。敷き詰める保育室のスペースの問題や収納場所の問題等もありましたが、「コット」導入のメリットを感じています。



## 新入生を祝う会

今年も無事に新入生を祝う会を行うことができました…と言いたいところですが、実はいつもなら梅寿荘の方もお招きしてお祝いしていたのですが、今年は愛染寮の子どもたち、職員のみでのセレモニーとその後の焼肉パーティーとなり、しかも食事は全員一緒にではなく各ホームごとという、いつもと違った新入生を祝う会になりました。

どうかなあと心配していたのですが、子どもたちからの「楽しい!」や「おいしい!」という声が聞けたのでほっとしました。

例年通り皆で食事をするのも良いですが、今年のようにメリハリをつけ、子どもとのコミュニケーションをいつもとはまた違う形で取れたことは、それなりに評価できます。

新任職員も自分のホームの子どもたちと、たくさん関わりを持つことができる場になったのではないのでしょうか。

## 愛染寮

児童指導員 杉本 拓也

新入学する子どもたちは、新しいステージに立ちます。これからも新しい環境で困難なことがたくさんあることではしょうが、コロナウイルスに負けず、お友達をたくさん作って、遊びや勉強を頑張りたいと思います。



あすなろ館内で行った新入生を祝う会

## センター 新年度のとりくみ!!

令和3年度は、「はじめのいっぽ」「どろんこの森」「地域とのふれあい交流」の通年サークル活動を実施しています。

小学生のサークルには多くの応募がありました。三密回避や引率等の関係もあり最終的に会員を抽選で25名にしました。奈良市独自の特別警戒警報が出され、一部施設が閉館されることになりましたが4月に説明会を行いました。各サークルの活動は昨年度のコロナ対策の経験を活かして屋外活動を中心に活動をはじめました。初回の活動は自己紹介、さつま芋の苗植えの後周辺散策でヤギ牧場に行きエサやりをしました。多くのヤギがえさに殺到し子どもたちも大喜びでした。

コロナ禍ではありますが、自然環境に恵まれた拠点を活かして、家庭ではできない体験、異年齢児間の交流や季節に応じた行事など行い「子ども

## 平城児童センター

センター長 俣徠 おさむ

たちの笑顔があふれ、センターに来てよかった」と実感できるような一年にしていきたいと考えています。



ヤギのえさやりに熱中

## コロナ禍ではありますが…

コロナウイルスが世間を騒がせ、2年目の春が来ました。近隣の学校や、家族、職場等で感染者が確認される事も増えており、落ち着くどころか、ますます注意していかなければならない状況になっている今日この頃です。この4月に私は仔鹿園への異動となり、初めての4月は不安でした。最初の行事として入園式があり、右も左も分からないまま本番を迎えましたが…不安は子ども達のにぎやかな様子で吹き飛んでしまいました。なぜなら私の知っている厳かな雰囲気のある入園式は

## 仔鹿園

児童指導員 杉田 裕介

そこに無く、子ども達は走り回ったり、笑ったり。園長先生の挨拶をBGMに散歩を始め、窓の外を眺めに行ったりしている子ども達を見ていると、自然と笑みがこぼれていました。子ども達にとって、式なんて関係ないのです。コロナウイルスも知ったこっちゃないのです。毎日を自然体に楽しく生きているのです。私たち大人が、この純真無垢な笑顔を守る為、より一層、感染予防対策に力を入れ、気持ちを引き締めていかないといけないと思いました。

## いつも以上の笑顔で

仔鹿園からいっぽに異動してから1か月ほどが過ぎました。仔鹿園とは異なり、幼稚園等との並行通園をしている子どもたちがほとんどであり、発達段階や援助方法も様々です。まだまだ慣れない事ばかりですが、子どもたちの笑顔に癒されながら業務をこなしています。

新年度が始まってからも新型コロナウイルスの感染は拡大しており、マスクを着用する子どもも増えています。マスクを着けて活動出来るようになったことに感動する反面、表情が読み取りにくくなりました。それは子どもも同様で、先生の表情が分かりづらくなったり、声が聞き取りづらくなっ

## 児童発達支援いっぽ

保育士 横田 岳大

たりしているはず。マスクを着用していても表情や声が伝わりやすくなるように、わざと声のトーンを変えたり、笑う時は目元も笑うように思い切り笑うようにしてみたりする等日々試行錯誤しています。マスクを着用して療育をすることには慣れましたが、相手からはどう見えているのかということは今一度見つめ直しながら、このコロナ禍を乗り切りたいと思います。

マスクを取って、思い切り笑顔を見せ合える日々が早く来ることを祈りながら、いつも以上の笑顔で子どもたちと関わっていきたく思います。

## こども園スタート

4月1日「極楽坊あすかこども園」がスタートしました。3歳児7名、4歳児2名そして、飛鳥幼稚園閉園に伴い、移行してきた5歳児11名が加わり、合計20名の子ども達が、幼稚園部として新しく入園しました。飛鳥幼稚園の子ども達とは、昨年1年かけて交流を積み重ねてきたこともあって、子ども達同士親しい関係で、始めることができました。集団生活が全く初めての3歳児達も、ようやく生活リズムがつかめてきたようです。

こども園になったことで、一番大きな変化は、在園時間が大きく異なる園児が、一緒に過ごすということです。1日の時間の移り変わりに伴い、一緒に過ごす集団の規模や質、場が変わったり、関わる保育教諭もかわったり、子ども達にとって環境の変化が生

## 極楽坊あすかこども園

副園長 老田 紀子

まれました。9時から2時の教育時間と、その他の時間を一体的に捉えて、自然な流れの中で子ども達が不安なく過ごせるよう、これからはより一層連携を密にし、教育・保育を進めていきたいと思ひます。



お迎えを待つ幼稚園部の子ども達

## パートナー支援の重要性

まだまだ新型コロナウイルスが落ち着きそうにない世の中ですが、私はこの法人に採用していただき無事2年目に突入しました。入職時から新型コロナウイルスが騒がれ、様々なイベントが中止になったりしたので、本来の動きが2年目では経験できと思っていたのですが、まだまだおさまらず…。3年目に期待しようと思っています。

発達障害者支援センターでいあーでは、発達障害がある方への支援はもちろんのこと、パートナーの方への支援にも力を入れています。月に一度、発達障害(疑いを含む)のある方のパートナー(配偶者・恋人)のための集まりを開いています。家庭生活や子育てを一緒にする中で、初めて何らかの違和感を

## 奈良県発達障害者支援センターでいあー

相談員 村上 雛子

持ち、周りに理解されないことで孤立感を持つ方のために、普段なかなか語ることのできない、悩み・困りごとなどを話し合える場となればと思ひ、開催にいたりました。周囲に相談しても、「稼いでくれているなら我慢してはどうか」、「うちの旦那も同じ」などというような返答にしんどくなり、さらに閉じこもっている方たちも多くおられます。そういった潜在的なニーズにも焦点を当てて支援を充実させていくために、私自身も勉強の日々です。外に出向きにくい状況だからこそ今できることを考え、少しでも自分の知識を蓄えて支援に活かしていきたいと思ひます。

## 地域の方と一緒に

昨年度よりあすか野地区の子どもたちの健全育成事業の一環として、あすか野小学校を拠点として地域協働本部が立ち上がり、保育園も積極的に参画することが出来るようになりました。地域の方々との交流の機会が増えるのではないかと楽しみにしていたところ、年長児の卒園制作「机づくり」に関わって頂ける事になりました。材料の購入や組み立て方など色々アドバイスをいただくことができ、とても心強いサポートとなりました。子ども達が自分たちで作ったという満足感や達成感を味わうことが出来る活動となり、地域の方々の大切さを改めて感じる事が出来ました。

## あすかの保育園

園長 小林 美香

今年は開園40年目を迎えますが、今まで以上に地域に根差した保育園となるよう、ニュースレターなどを通して、活動の様子を知って頂けるようにしながら、この活動を通して更に地域の方々との交流の機会を深められるようにしたいと思ひます。



かなづち頑張ってます

# 高齢者施設より

9p

- 養護老人ホーム梅寿荘
- 生駒市梅寿荘地域包括支援センター

10p

- 梅寿荘居宅介護支援センター
- 梅寿荘デイセンター
- はあとぽーと梅寿荘

11p

- 在宅介護支援センター地域支援室
- デイセンター寿楽
- デイセンター延寿

12p

- デイセンター憩の家
- あくなみ苑

## パイナップルケーキの午後

四月の末頃、養護老人ホーム梅寿荘では、職員の焼いたパイナップルケーキとコーヒーを、施設の屋上でご利用者の皆さんで召し上がっていただきました。青い空の中を白い雲が流れていくような、本当にいいお天気の日で、屋上にはヒラドツツジの花もたくさん咲いていました。ご利用者からは「ええ気持ちや」「いい天気やね」などのお声をいただき、こちらも嬉しかったです。辺りには野鳥も集まってきていて、ヒバリやツバメが飛び回ったり、近くでウグイスが鳴く声が聞こえてきたりと、自然の風情も感じることができました。また今後も、機会を見つけて、やわらかな時間を一緒に過ごすことができればと思っています。

## 養護老人ホーム梅寿荘

主任支援員 村上 尚



遠く奈良の若草山まで見渡せました。

## 共に乗り越えていくことができるよう

### 生駒市梅寿荘地域包括支援センター

センター長 岩井 香奈子

全国地域包括・在宅介護支援センター協議会から会員(地域包括支援センター1,999センター、在宅介護支援センター739センター)に向けて、令和2年10月「新型コロナウイルス影響Web調査」がありました。最初の非常事態宣言が出された前後の期間(令和2年4月～8月)、第一波の影響を振り返り、従前どおりの活動が困難となり対応に苦慮したことがあれば、その内容と感染防止対策としてどう対応したか等、具体的に記述回答し、今年2月全国Web研修会で報告があり、情報交換しその後の活動の参考としました。

コロナ禍で地域の高齢者にどのような影響を及ぼしたかについては、ほとんどのセンターが「生

活不活発・閉じこもり」と回答、また「サービスの利用減少」「精神的に不安定・うつ症状や認知症の進行」については多くのセンターから回答がありました。市内はもちろん全国的に同じ問題を抱え、乗り越えていく方策を皆が探りながら第4波を迎えました。

人との物理的な距離が縮められなくても精神的な距離を縮めるために、職員同士は工夫して明確な方針や具体策を打ち出し、励まし合いながら利用者、地域の高齢者やボランティアの皆様と共に乗り越えていくことができるよう、前向きに今年度も進んでいきたいと思ひます。

## コロナウイルスワクチン接種

コロナウイルスの変異型や第四波など感染が拡大しており、生駒市も四月には感染拡大緊急警報なる独自の警報が出されるなど、不安な知らせが続いています。

しかしその中でも、コロナワクチン予防接種の知らせが利用者宅に郵送され、身近な現実となるうれしい兆しも見えてきています。

利用者さんの中には、接種の手続きに不安がある方や、いつどこで受けられるのかがはっきりしない面もあり戸惑いが見られる方もあります。ひとり暮らしの方や高齢者世帯も多く、私達ケアマネージャーも利用者さんと一緒に予防

## 梅寿荘居宅介護支援センター

介護支援専門員 小出 弘美

接種の希望の有無を確認したり、返信の手続きなども支援させて頂いている所です。

ワクチン接種も必要な数が十分そろっておらず、予定通りの予約が取れない状況もみられましたが、85歳以上の高齢者から順次接種が始まっており、一回目の接種を済まされた利用者さんもおられます。

小さな一歩かもしれませんが、確実に一年前とは違う一歩が始まっていると感じます。

マスクに手洗いうがいは続けながら、コロナウイルス感染対策に努めて行きたいと思います。

## 〇〇の家の話

95歳の祖母が要介護状態になりました。脳内出血手術後、身体機能・認知機能低下により、日常生活の様々な場面で介護が必要になりました。両親をはじめ、叔父や叔母は介護保険サービス利用に向けての手続きが分からず、また、祖母の生活を支えるための選択肢も殆ど持っていない状態でした。高齢者福祉に携わる者として、そして利用者家族として祖母のこれからの暮らしについて考え、介護保険サービス利用に向けて勤めています。

この機会に改めて思うことが多くありました。介護が必要になった時、ご本人やご家族の抱え

## 梅寿荘デイセンター

生活相談員 中井 耕大

る不安や戸惑い、葛藤は非常に大きいということです。どこに相談すれば良いのか、誰にお願えば良いのか、どういったサービスがあるのか、任せても大丈夫なのかなど。ご家庭毎に背景があり、それぞれの課題があることを再認識しました。

サービスを提供する立場の私たちは、選んで頂く側として、信頼して頂き期待に応えられるよう、より一層努めなければと思いました。そして、ご利用者それぞれの抱える不安や思いに寄り添い、少しでも安心した生活が送れるよう支援が出来ればと思います。

## ご利用者の日常に接して

新型コロナの発生により日常生活が一変してしまっただけでなく、昨年現在まで、ご利用者のお宅へ訪問する私達ヘルパーも常に手洗い、消毒に心掛け、マスク、ゴーグル、手袋、場合によっては防護服を着用してケアを行っています。それまでにはない仰々しい姿に、最初は少し驚かれたご利用者も居られたと思いますが、今では当たり前のことになっています。そのような準備での訪問先には、独居の方が多く、日頃から人と話すことや、外に出る機会が少ないご利用者もいます。訪問するヘルパーに、最近あった事、心配な事、困った事、身体の話等、ケアの合間に

## はあとぼーと梅寿荘

サービス提供責任者 坂口 文香

お話をさせていただきます。何気なく話される内容でも重要なことだったりするので、聞き流すことのないよう注意して様子を伺い、ご利用者を見守っています。ご自身の昔の話をして下さる事がありますが、人柄や、今までの暮らしぶりが伺えてとても身近に感じられ、共感したり教えられたりします。

訪問介護は決まった時間内でのケアではありますが、ご利用者の生活に密着する身近な者として、ご本人が少しでも自分らしく生活を送れるようお手伝いできればと思います。

## 約束しました地域の笑顔

建物を囲む木々も若葉が生い茂り、小鳥のさえずりに宝山寺川の川の瀬音、来られる方々はホッと一息自然を満喫されています。

地域支援室では百歳体操をはじめとして、サロンや音楽会、彫金や干支作成。季節ごとの作品作り地域包括による介護予防教室と昨年度は704人の地域の方が利用されておられます。

また、月2回奈良県かるた協会の方々も利用され、子供たちも交えて百人一首の音が響いております。昨年は4月～6月まで新型コロナウイルス感染拡大予防のため自粛となり、今年も5月から自粛に入りました。

しかし4月の末、クロマチックハーモニカ奏者日本一の竹内海人さんにサロンにお越しいたごき、

## 在宅介護支援センター地域支援室

室長 三家 京子

演歌・ジャズを吹いて聞かせていただき大きな拍手と笑顔の一日を過ごしていただくことが出来ました。コロナ感染が収まった時には、再び皆様と笑顔でお会いできる事をお約束しました。

日本一のクロマチックハーモニカ奏者の竹内海人氏



ハーモニカの演奏に聴き入る地域の皆様

## 寿楽の湯

デイセンター寿楽では昨年12月のゆず湯を皮切りに、月毎で季節に応じた替わり湯を毎月実施しています。1月はみかんの湯、2月は大根の湯、3月はヨモギの湯、4月は桜の湯、5月は菖蒲の湯を、月の内数日間の期間を設けて行いました。どの湯も大変好評を頂いております。日程の案内を館内に掲示すると「あらその日が楽しみだわ。」や「やった2日間も入れるわ!」等々弾んだが聴こえてくる事も。

古来からの文化で、日本ではお風呂に何か浮かべて入るのを好む、と何かの記事で目にしたのがヒントとなった事に加えて、低コストなのも魅力の一つで実施に至りました。ゆずは職員用駐車場に植え

## デイセンター寿楽

生活相談員 上平 昇兵

てある物を、みかんの皮は食事やおやつで生じた本来なら破棄するものを使用。大根の葉はスーパーで頂戴したものや職員が持ち寄ったり。よもぎは職員の庭先のものや、地域にお住いの方からのご厚意で、所有される山にあるものを無償で頂戴しました。中には収穫や事前準備に数日間を要し、手間がかかる物もありました、実施する側も初めての事柄で困惑もありますが、準備段階からみんなで楽しみながら行っています。

6月以降も替わり湯を実施いたしますので、ご興味のある方はぜひ【寿楽の湯】に、お立ち寄り下さい。

## コロナ禍でもできる事

新緑の季節、爽やかな風がデイホールの中庭の扉より流れ込んで、清々しい気持ちになります。建物の一角に見える青空も綺麗です。陽の光が届きにくい中庭を、数年前より開拓。『やすらぎの杜』ならぬ『やすらぎの庭』作りを計画しました。今年は、見事な黄色の花びらをまとったモッコウバラがアーチを作り、2階のお部屋まで咲き誇りました。花壇には、一列にユキヤナギやギボウシ等々、挿し木も成功。季節のお花も生き生きと咲き、利用者の方々にやすらぎの空間を提供しています。令和に入り、新型コロナウイルス感染による制限のかかった日常となり、デイでも影響を受け、楽しみの外出支援

## デイセンター延寿

主任生活相談員 黒葛原 厚子

が中止となりました。何か出来る事は…と、数年かけて育ててきた身近にある中庭に出る事に着目。少し歩いての気分転換や室内から屋外へとリフレッシュを図る癒しの時間へ。今年は季節を感じる植物を共に育てる、楽しみを分かち合い共有する時間を、と考えています。そして、20周年を迎え、新たな制度にも意識を置き、コロナ禍でも取り組める『脳トレに特化したデイ』の再開を試行錯誤し、知恵を出し合い、職員一丸となって『笑顔の絶えないデイセンター延寿』特色を活かせる事を目標に、人材育成にも取り組みを行って行きたいと考えています。

## はじまりのはじまり

平成24年に憩の家に配属になってから9年になる今でも神経を使うのは、初回の訪問と、初回のご利用の日です。認知症症状のお持ちの方は、初対面の人が来たり、知らない場所に行くことは、とてもエネルギーを必要とします。それが、ご利用となると、どれだけの神経をすり減らされているか伝わってくる気がします。その人の生活の歴史や郷土の情報を参考に、ご本人の気持ちに寄り添うきっかけを作り、たとえ予定していた日に来所できなかったとしても、何度も伺い、その都度、ご本人との会話などを積み重ねていき、心を開いていただけたときにデイサービスの話をはじめます。来てくださったとしても、おそらく不安で一杯なので、寄り添いながらいつでもお話ができるようにしています。中には、ご家族も一緒にデイセンターで過ごしていただき、慣れてから、ご本人のみご利用されるケースもあります。

## デイセンター憩の家

相談員 友國 和之

今も、離れたご家族からのご要望で、デイセンターに来られていないご利用者を、送迎の帰り道に立ち寄り、世間話をしながらお越しいただける機会をうかがっています。そのことが少しでも、安心して自分らしく過ごせる場所となることを願っております。



皆様とお花見ドライブ

## 利用者様が大事。仕事が大変。 自分も大事。家族も大事。

## あくなみ苑

看護主任 田中 豊子

「自分を大切にすること」という事は、自分の人生に対して前向きに進めていく事です。人から言われた目標や、結果を出すことを強制されると、頑張ることが辛くなります。しかし、自分で決めた事であれば、責任を持ち、失敗して落ち込む事があっても、それを成長に繋げられる自分に変えていけます。自分を大切にしている人は、相手を大切にすることの重要性を知っているので、自分だけでなく周りの人も大事にできます。それは、法人の掲げる「あなたらしさをいつまでも」、利用者様に寄り添い支え続ける看護・介護に通じるのではないかと思います。

今一度、自分自身を見直し、日々丁寧な看護を提供できるよう、5つの目標を立てました。

1. ありがとうの気持ちを持って接する。
2. 常に気遣いを忘れない。
3. 聴かれたことは丁寧に答える。
4. 良いと思う事はやってみる。
5. 最後まで諦めない。

当たり前の事ばかりですが、当たり前を大切に仕事だけでなく、日々の生活においても意識していきたいと思えます。

今、世界中が新型コロナウイルスという目に見えない脅威と戦っています。平穏な日常を脅かす目に見えない脅威です。しかし、私達には専門職として、いかなる状況の中でも「利用者様に寄り添い支え続ける」というブレない軸があります。常にその人の最善を考え、情報収集し、話し合い、工夫し、支えていく看護・介護の力は、どのような状況下においても変わることはありません。

あくなみ苑は今年25周年を迎えます。先輩方が築き上げられた良き伝統・良き習慣を引き継ぎ、さらに個人の持つ様々な力を生かし次に訪れる未来へと柔軟に対応できる組織作りをしていきたいと思えます。

# 新採用職員辞令交付式、研修会報告

法人研修委員 大平達也・緒方優子



去る3月25日・26日の二日に渡って「令和3年度 新採用職員辞令交付式、研修会」が実施されました。二日に渡ってといっても今年度はコロナ感染予防対策が必要であり、いつもよりも広い会場で飲食にも配慮が必要となったため、契約職員対象の研修会はなんとか桃李館で実施できましたが、正規職員対象の研修会は生駒市図書館で午後のみで二日間行うという形になり、施設見学と滝寺本堂の拝観はできませんでした。

このような状況のため、どうしても新採用職員さんたちは経験が不足してしまうかもしれないが、法人職員としての最初の意識を作るための研修は滞りなく行うことができました。簡単にそのご報告をいたします。

## ●辞令交付式・理事長訓示

辞令交付式はそれぞれ名前を呼ばれて理事長から辞令を受け取るという、いつも通りの光景ではありますが、当人たちにとってはここからがスタートと思うと、見ているほうも身が引き締まります。

理事長の訓示では、奈良時代から続く奈良の仏教の歴史を追いながら、社会と人に対して貢献することを考え実践し続け、現在の法人につながる基本的な姿勢についてうかがいました。

「100たす1は？」 「100ひく1は？」  
答えられた方はきちんと話を聞いていた人です。

## ●コンプライアンス

(講師・梅寿荘デイセンター センター長 伊藤智信)

「コンプライアンス」という言葉自体、新任職員たちには初めて耳にするものかもしれません。ですが、法人職員として新任でもベテランでも欠くことのできない、人として守るべきルールだ

という説明が心に残りました。

## ●理解力・伝達力

(講師・梅寿荘デイセンター 生活相談員 中井耕太)

理解力・伝達力とはコミュニケーションそのものであり、送り手の力も受け手の力も必要であるとの話でした。そのコミュニケーション力が福祉職として、信頼関係づくりにも必要になりつきつめると援助そのものとも言えるとのことで、日々の仕事でも肝に命じていることを再確認する機会となりました。新任職員の心に一番残ってほしいと個人的には願いました。

## ●リスクの理解

(講師・仔鹿園相談支援センター 相談員 田中一恵)

「ひやりハット」すなわち気づきの大切さ、その気づきをどのように改善して事故を防いでいくのか、というリスクマネジメントの基礎を中心とした内容でした。新任職員としては、まず気づく事、そして記録する・報告することが役割であり、日々実践を続けてほしいと思います。

今年度は対面での講義形式で実施しましたが(昨年度はオンラインで実施)、グループワークは行わず講義や個人ワーク中心の内容だったため、意見交換の機会はありませんでした。その為か見ているも新任職員の皆さんは、なかなか緊張がほぐれなかったように思います。この緊張感もオンラインでは感じ取ることが難しいものであり、改めて対面で実施する良さを実感できました。新任職員の皆さんは気疲れがあったと思いますが、研修で学んだことは現場に活かして、それぞれの事業所で活躍することを願っています。新採用研修お疲れ様でした！

50周年の年を迎えて

いこま乳児保育園 園長 喜多 由希子



4月1日付けで、いこま乳児保育園の園長に就任いたしました。

平成7年、法人に入職し25年間保育士として勤めてきました。あすなろへの異動や乳児保育園の主任を経て現在に至ります。この就任と同じくして今年度は50周年の節目にあたります。これまで乳児保育園が大切にしてきた温かい雰囲気や自然と共に育つという環境を守りつつ、子どもの成長を保護者と共有していきたいと思えます。コロナの影響で行事が縮小されることが増えましたが、形を変えて行えることはないか考えるチャンスと考え保育を進めていけるよう心掛けていきます。

今後ともご指導よろしく願います。

新任職員からのひと言

Voice from New Staff

「夢」



愛染寮 保育士 田中 渚

私は通っていた保育園の先生に憧れて、幼い頃から保育士になりたいという夢をもっていました。その想いは高校生になっても変わらず幼児教育科のある大学へ進学しました。そして、授業を通して児童養護施設という存在を知りました。初めは自分の全く知らない環境に驚きもありましたが、実習を通して幼稚園や保育園ではなく、児童養護施設で働きたいという思いが強くなっていきました。

また、私は大学四年間で子どもたちと一緒に野外活動などに行くキャンプリーダーをしていました。子どもたちと一緒に野外で遊んだり、一緒にご飯を作ったり、一緒に部屋で寝たり、何かに一緒に挑戦したりなど活動にとっても楽しさを感じていました。環境は全く違いますが、子どもたちと日々の生活を共に過ごす児童養護施設に近いものを感じたのも施設職員を選んだ理由の一つでもあります。

愛染寮の職員として働き始めて一ヶ月が経とうとしています。まだまだ新任で分からないことなどは沢山ありますが、子ども一人ひとりとしっかりと向き合うことは大切に、日々の生活での関わりから信頼関係を少しずつ築いていきたいと思えます。今後ともどうぞご指導のほど、宜しく願います。

「感謝の気持ちを忘れずに」



梅寿荘 介護職員 天野 舞香

特別養護老人ホーム 梅寿荘へ入職し早や一ヶ月が経ちました。この一ヶ月で、先輩方や利用者様から沢山教わることがありました。

利用者様からの言葉で気づくことや、先輩方から教わった根拠に基づいた介護、その人らしさを大切にしたい介護の方法がとても素晴らしいと思います。

その人らしさを大切にしていく上で、利用者様にどのように接すればいいのか、必要なことは何かなど沢山考えていかなければいけないことがあり、利用者様がより安全に安心して生活できる場を作っていく一員になりたいと強く思うようになりました。

時間が経つにつれ、私自身、学生時代とは違い自分の行動に責任感を強く持つようになったと思えます。その為、その責任感に対して弱い気持ちが出てしまっている時があります。しかし、先輩方から学んだことなどを、もう一度見つめ直し自身の知識にし、発揮できるよう努力していこうと思っています。

これからも周りの方々日々感謝の気持ちを持つことを忘れず、尊敬できる先輩方の姿を目指し、日々努力していきたいです。また、利用者様が安心して頼ることができる介護福祉士として、向上心を常に持ち、沢山の知識をつける努力を忘れずに、学び成長し続けていきたいと思えます。

人事

令和3年度 新採用正規職員

梅寿荘

介護職員 旅河里帆  
 介護職員 天野舞香  
 介護職員 小林正慈  
 管理栄養士 長須利恵  
 介護職員 羽山浩世  
 看護師 吉良輝美

延寿

介護職員 瀬田英梨子  
 介護職員 墨恭子  
 介護職員 岩崎一弘  
 介護職員 高仙坊隆稔  
 理学療法士 小羽田佳子  
 介護職員 岩本彩花  
 看護師 森井友美

あくなみ苑

介護職員 羽山真唯  
 介護職員 花田望  
 看護師 宮下香織

梅寿荘地域包括支援センター

介護支援専門員 笹本奏

デイセンター寿楽

調理師 上平尚美

愛染寮

保育士 田中渚  
 保育士 豊島恵  
 保育士 井川楓莉  
 保育士 津田花音  
 保育士 前田夏子  
 いこま乳児院 山川侑夏  
 保育士 柴田真佑  
 いこま乳児院 保育園 吉川瑞莉

あすかの保育園

保育士 溝口由里菜  
 保育士 畠山由紀子  
 極楽坊あすかこども園 杉本香織  
 保育教諭 竜門佳代  
 保育教諭 松田幸子  
 保育教諭 坂野里菜

であー

公認心理師 大宅咲子  
 いっぱ 藤村琴音

あすなる

保育士 須藤千恵子  
 保育士 藪本愛  
 保育士 鈴木沙梨  
 保育士 小野奈緒美

令和3年度 異動職員

愛染寮↓仔鹿園

児童指導員 杉田裕介

愛染寮↓いこまこども園

保育士 財本昂洋

愛染寮↓いこま乳児院

保育士 酒井みらい

いこま乳児院↓愛染寮

保育士 豊田実来

いこま乳児院↓いこまこども園

保育教諭 村田実紗希

いっぱ↓仔鹿園

保育士 奥克至

仔鹿園↓いっぱ

保育士 横田岳大

いこまこども園↓極楽坊あすかこども園

保育士 杉本恵子

いこまこども園↓いこま乳児院

保育士 田村佳奈子

あすかの保育園↓いこま乳児院

保育士 増田実希子

令和2年度 退職者

あすかの保育園

福本彩乃

いこま乳児院

磯部ななか

いこま乳児院

家治圭子 松田めぐみ

矢野萌子

こども支援センターあすなる

豊川麻里子

仔鹿園

中嶋佑里 稲田桂子

井上美瑞希

あくなみ苑

菊本由香 齋藤勇太

岡本航 蓮本響流

延寿

今井早知子 松山馨湖

遠藤光子 近藤眞

はあとぼーと梅寿荘

南林敏美

特養梅寿荘

唄大樹

梅寿荘デイセンター

松岡利和

表彰式  
Awaed

●令和2年度法人永年勤続表彰、全国レベル表彰受賞



法人本部において20年、25年、30年、35年、40年、45年という長きに亘って法人施設で勤務に励まれた職員の皆様18名、そして全国社会福祉協議会会長表彰、全国老人福祉協議会会長表彰、日本保育協会会長表彰を受賞された方13名、瑞宝単光章の栄に浴された3名の皆様方の表彰式が執り行われました。おめでとうございます。

●瑞宝単光章授与の栄に浴されて



前田紀美子氏 極楽坊あすかこども園副主幹教諭の瑞宝単光章受章の祝賀会が令和3年5月29日、ホテル日航奈良で開催されました。コロナ禍の中、やむを得ず何度も延期となりました。この度、開催するにあたり感染症対策のため、飲食の提供はなく、またテーブル席ではなく、ソーシャルディスタンスを守りながら行われました。そんな中でのお祝いだからこそ、出席された皆様の温かいメッセージや、祝賀会を企画された発起人の皆様、また、こども園の先生たちの思いが伝わってきました。最後に前田先生の謝辞に胸が熱くなりました。とても温かい祝賀会でした。

役員会  
Committee

令和3年3月24日、法人本部研修室にて理事、監事の皆様10名の出席確認を行い第4回、理事会が開催されました。

第1号議案から第7号議案である令和2年度第二次補正予算案、令和3年度事業計画及び令和3年度当初予算案の承認、諸規定の改正、認定こども園極楽坊あすかこども園運営規程等の制定、施設長の選任等々について長い時間をかけて審議をしていただきました。ありがとうございました。

苦情等対応  
三者委員会  
Solution

苦情等対応第三者委員会が法人本部において執り行われました。法人全施設に対して保育や介護に関する苦情が47件寄せられましたことをご報告いたします。

苦情に対して説明を行い納得していただいたケースが26件、苦情を受け改善を行ったケースが17件、対応中、未解決が1件、その他3件という内容でした。

各施設より代表者1名が第三者委員会に出席しました。苦情に対しての経緯等を説明し、ご意見とご指導をいただきました。今後もご利用者のお気持ちや声に耳を傾け、より良いサービスに繋げていけるよう各施設で取り組んでまいります。(令和3年3月8日開催。)

苦情等対策委員名簿 令和3年4月1日～令和5年3月31日 社会福祉法人 宝山寺福祉事業団

小川 千恵里

生駒市社会福祉協議会  
生駒市デイサービスセンター幸楽所長

谷川 義明

法人監事  
前下市町副町長

谷口 誠

法人評議員  
元メディカルセンター事務局長

新田 一郎

法人評議員  
宗教法人宝山寺事務長

宮本 和子

元いこま乳児保育園園長  
元民生委員

宮本 しげ子

法人評議員  
奈良県いのちの電話協会  
小さな親切役員

◆編集後記

一年で一番好きな5月・・・なのに梅雨入りとは、と気が滅入りそうになったのですが、でも考えてみると自然って凄くなって改めて感じています。

今は雨を降らせる時なのかもしれない。緊急事態宣言が出ている中、この雨で少しでもコロナ感染が落ち着いてくれたらと願うばかりです。そして雨による被害がどうぞ起こりませんようにと祈ります。森本

